

病虫害防除所情報第8号

令和3年3月1日
山梨県病虫害防除所

【モモせん孔細菌病の春季防除について】

1. 発生状況

令和2年8月に実施した調査では、調査園（35ほ場）の全てで発病葉が確認された。また、3ほ場（ほ場率8.6%）においては、甚発生（発病葉率51%以上）であった。昨秋は、台風の接近等に伴う暴風雨はなかったものの、10月の降水量は多かったため（平年比183%：甲府）、病原細菌の越冬量も多いことが予想される。

令和元年と比較すると被害が少なかった地域も認められるが、油断せず春期防除を徹底する。

2. 防除対策

越冬した病原細菌は、気温の上昇に伴って増殖する。芽枯れや枝枯れ（図1）、春型枝病斑（図2）を生じ、葉や幼果への伝染源となる。

春型枝病斑は開花期頃から発生し、落花期頃に目立つようになる。病原細菌は風雨によって伝染するため、降雨の前に対策を実施する。

（1）耕種的防除

芽枯れや枝枯れ、春型枝病斑のある枝は、見つけ次第、できるだけ基部から取り除く。剪除は樹冠上部から順に行い、早期発見に努める。



図1 芽枯れ・枝枯れ



図2 春型枝病斑

※これらの枝は伝染源となるため、見つけ次第剪除し、ほ場外に持ち出して処分する。

（2）薬剤防除

越冬した病原細菌の増殖及び伝染を防ぐため、ボルドー剤による防除を実施する。

時期	防除薬剤(100㎡あたり薬量)	散布量	注意事項
3月中下旬 (花卉が見え始める頃)	IC ボルドー412 30倍 (3.3kg) または 4-12式ボルドー液 (硫酸銅 400g、生石灰 1.2kg)	400㎡ /10a	住宅隣接園では ムッシュボルドー DF 500倍(200g) を用いる。

※ネクタリンの防除には IC ボルドー412 またはムッシュボルドーDF を用いる。